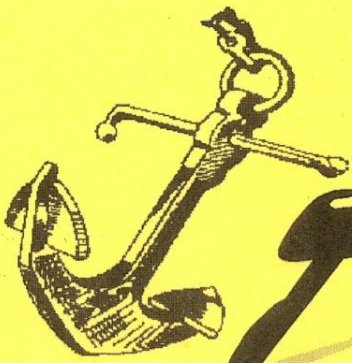
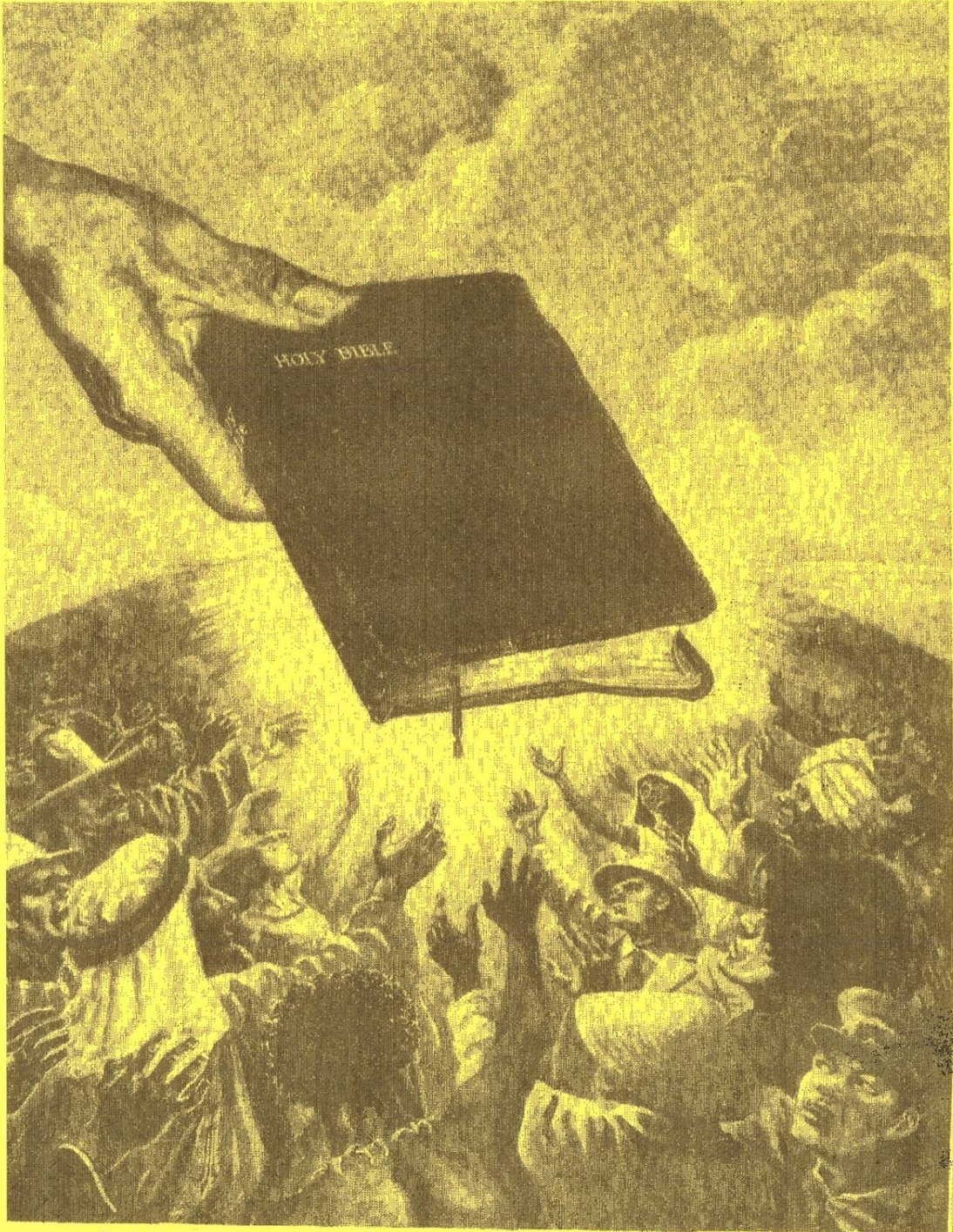
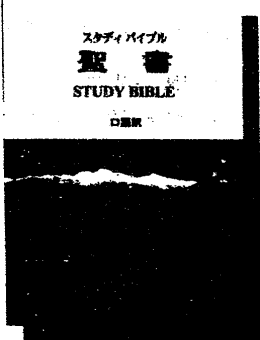


No. 26



Anchor





待望の聖書

「スタディ バイブル」 (研究用聖書)

「聖書を自分で楽しく学び、もっと深く理解できる方法はないものだろうか」

「内容が把握しやすいように見出しが付いたら便利だな」

「何章何節と素早く見つけられる聖書だといいなあ」

「信頼できる確かな注解のついた聖書がないかな」

「折りにかなった適当な聖句をすぐ見つける方法はないものだろうか」

「忙しい時にすぐ使える系統だった聖書研究の資料が集められた聖書があればいいな」

「この一冊さえ持っていれば、いつでもどこでも知人友人に聖書研究をしてあげられる資料がついた聖書はないものだろうか」

「聖書が横書きだと英語、外来語の書き込みなど便利だし読みやすいのだが、…」

「いろいろな翻訳聖書が出ているのでどの聖書を選んだらいいか分からない。」

などと思ったことはありませんか。

このような要望にこたえたのが、まさにこの「スタディ バイブル」なのです。「スタディ バイブル」というのは、研究用聖書という意味です。韓国生まれで、英語、スペイン語、中国語で出され、この度は、日本語でも出版できたことは、いろいろな意味から神の摂理であり、また時機にかなっていると信じます。

「スタディ バイブル」の利点

この「スタディ バイブル」がどんなに有用でより良い聖書であるかを説明いたしましょう。

1. 「スタディ バイブル」が口語訳聖書を採用したわけ。

あらかじめ言っておきたいことは、どの聖書にも一長一短があるということです。新改訳が正しいところもあります。新共同訳の方が意味がはっきりし、また正しく翻訳しているというところがあることも確かであります。

ある聖句が正しい訳か、間違った訳かを何をもって判断するでしょうか。学者によっていろいろ解釈があり、特に難解の個所には翻訳する人の考えがどうしても反映されることがあります。全く完全な翻訳というのはありません。ですから、いろいろな翻訳聖書を比較しながら研究するということが大事です。

しかしながら、イエス、使徒たち、ワルデンセス、アルビ派、ロード派、荒野の教会、宗教改革者たち、再臨運動者たちに継承されてきた聖書の写本から翻訳され、400年近くも英語世界に君臨してきた欽定訳聖書が翻訳においては最も正確であることが認められています。しかし、カトリックの書店には、他の聖書はにおいても欽定訳聖書だけは置かないそうです。

カトリックの学者、アレキサンダー・ゲッデスは1786年に、欽定訳聖書の「正確性からいうと最も優れた翻訳」であると言っています。アイルランド生まれの英国の劇作家・批評家のバーナード・ショーも欽定訳聖書は「並はずれた翻訳である」と言っています。(新欽定訳の序論参照)。

「終わりの時」の預言者、エレン・G. ホワイトも95%は欽定訳を使っているのです。他の翻訳聖書の使用は5%だそうです。欽定訳の意味を損なわず、表現がより分かりやすい時にのみ使用しているといわれています。

では、どの聖書がいいかという選択の基準となるのは、次の三つだと考えられます。

① まず第一の基準は、どれほど原語に忠実に翻訳しているかということです。旧約の原語はヘブル語で、新約の原語はギリシャ語です。旧約のもとになるヘブル語の底本は、1937年から替えられ、翻訳も変わってきているのです。でも新約のもとになるギリシャ語の底本ほどではありません。ギリシャ語底本は1881年からシナイ写本、バチカン写本を修正した底本に乗り換えました。ですから新約聖書の翻訳となると多くの削除と変更が見られます。翻訳というものは、同じ底本を使っても違いが出てくるのは仕方のないことですが、あまりにも多くの削除、変更があるということは、底本が替えられたからです。

この問題は非常に興味深い重要な研究課題ですが、ここでは紙面が許しませんので説明できません。興味のある方は、資料を取りそろえておりますので個人的に研究していただくようお勧め致します。

19世紀の半ばまでは聖書を翻訳するときに使われる底本は、神が奇跡的に守られてきた「公認本文」といわれるものでした。欽定訳聖書はこのイエス、使徒、荒野の教会、宗教改革、再臨運動という一連の流れにおいて変わることのない「公認本文」に基づいて翻訳されたものです。ですから、

- ② 第二の基準は、欽定訳にどれほど近く翻訳しているかということです。
- ③ 第三の基準は、「終わりの時」の預言者はどのように使っているかということです。「預言者の霊は預言者に服従するものである」(1コリン14:32, 33)。証の書における聖句の使い方を注意深く調べることです。

では、口語訳をこの三つの基準で検討してみましょう。

- ① 口語訳は、新改訳、新共同訳と同じ系統の底本を使用していますが、「公認本から削除された部分を〔 〕の中に保留しています。

新改訳、新共同訳にもありますが、口語訳がずっと多く保留しています。

② 日本語聖書の中で口語訳が全体的にいて最も欽定訳聖書に近いと思います。

ですから、この「スタデイ バイブル」聖書の本文は、口語訳を使用させて頂くよう日本聖書協会より許可を受けました。日本語では口語訳が先の三つの条件を最もよく満たし、欽定訳に近いので、今のところ、より良い聖書だということを私は信じています。今販売されている口語訳聖書と新改訳聖書と新共同訳聖書を自分で比較研究して、同じように考えている人は少なくはないと思います。

③ 従って、口語訳聖書は、証の書と一致するところが多いのです。

教会に口語訳聖書、新改訳聖書、新共同訳聖書を持って来る人々を想像してください。牧師が、「皆さん、まず、マタイ18:11をお読みしましょう」と言います。新共同訳聖書を持っている人が戸惑って隣の人にささやいている姿が見られます。なぜでしょう？11節がないのです。「では次に、使徒行伝8:37を読みしましょう。」またざわめいています。なぜ？新共同訳聖書にも、新改訳聖書にもないのです。外人宣教師は「今朝は、マタイ6:13について考えてみましょう。国と力と栄えとは限りなく汝のものなればなり」と説教を始めます。口語訳聖書、新共同訳聖書、新改訳聖書を持っている日本人会衆のざわめきが目立ってきます。たまたま大正三年の聖書を持っているおじいちゃん自分の聖書にあるのを見て喜んでいます。

セブンデー・アドベンチストの牧師の説教です。「今朝は第一天使の使命と健康改革について学んでみましょう。では、黙示録14:7をお開きください。」「神をおそれ、神に栄光を帰せよ」とみんなで朗読します。新共同訳の人と口語訳の人がまちまちです。どうしたのでしょうか。なるほど、新共同訳聖書では「その栄光をたたえなさい」となっているのです。牧師は「栄光を神に帰す」という言葉から、1コリント6:20「自分の体をもって、神の栄光をあらわしなさい」1コリント10:31「飲むにも食べるにも、また何事をするにも、すべて神の栄光のためにすべきである」という聖句に結びつけてとうとうと説教していますが、新共同訳聖書の人々にはピンときません。

ある聖日の礼拝説教。「今朝は黙示録14:7のみ言葉、第一天使の使命と信仰による義認についてお話します」「神に栄光を帰せよ！どのようにわたしたちは神に栄光を帰すのでしょうか。ローマ書4:17-22を読んでみましょう：

『4:17彼（アブラハム）はこの神、すなわち、死人を生かし、無から有を呼び出される神を信じたのである。4:18彼は望み得ないのに、なおも望みつつ信じた。...

4:19すなわち、およそ百歳となって、彼自身のからだ死んだ状態であり、また、サラの胎が不妊であることを認めながらも、なお彼の信仰は弱らなかつた。4:20彼は、神の約束を不信仰のゆえに疑うようなことはせず、かえって信仰によって強められ、栄光を神に帰し、4:21神はその約束されたことを、また成就することができると確信した。4:22だから、彼は義と認められたのである。』

預言者、E. G. ホワイトは『信仰による義認とは、人間の栄光を塵に伏させ、人にはできないことを、神が人のためになさる神の業である』と言っていますが、まさに第一天使の使命に、信仰による義認の教理をみいだすことができるのです。』

牧師は口語訳聖書を使って見事に信仰による義認を靈感の言葉と関連づけて解き明かしていると言えるのではないのでしょうか。

新共同訳では「その栄光をたたえなさい」となっています。原語には「たたえる」「讚美する」の意味もありますが、「栄光を神に帰す」が直接に信仰による義認と結びつくのではないのでしょうか。

また、「スタディ バイブル」が口語訳を採用した理由に、口語訳は、他訳と比べて削除されている部分がずっと少ないということもあります。

神の言葉を削除することは、たとえどんなに小さな言葉でも大変な違いをもたらすことがあります。

たとえば、再臨運動の大失望の後に、聖所の清めはこの地上の聖所ではなく、天の聖所であることを発見させた、ヘブル書8:1の聖句についてE. G. ホワイトは、次のように言っています。

「真理の探究者たちは、再びヘブル人への手紙にもどって、第二の、すなわち新しい契約の聖所の存在が、すでに引用した『初めの契約にも、礼拝についてのさまざまな規定と、地上の聖所とがあった』というパウロの言葉に暗示されていることを発見した。そして、「も」という言葉が用いられていることは、パウロが前にこの聖所について述べたということを示している」大下125。

この小さな「も」という言葉にヒントを得て最後の贖いという大真理を発見する一つの手がかりとなりました。

ルカ23:43の「よく言うておくが、あなたはきょう、わたしと一緒にパラダイスにいろであらう」というイエスの言葉は、このままだと十字架の強盗は、イエスと一緒に今日天国に行くと言われます。句読点の打ち方が「今日、わたしは言うておく。あなたはわたしと一緒にパラダイスにいろであらう」とすれば、聖書の全体的な教えに反しませんが、前者のままだと死んですぐ天国へ行くという霊魂不滅説に解されるのです。

アメリカでのある結婚式でのエピソードです。親友が遠い東の方から結婚式に電車で急いでやってきました。しかし、結婚式には間に合わないことが分かりましたので、電報を打ちました。「牧師様、私からの祝福の聖句として、新婦のために最初にヨハネ4:18を讀んでください。」披露宴の時になって牧師は、その親友からの電報を讀み始めました。「あなたには五人の夫があったが、今のはあなたの夫ではない。」牧師はじめ会衆はみんなびっくりしました。花嫁の親友は実は、「第一ヨハネ4:18『愛には恐れがない。完全な愛は恐れをとり除く』を讀んであげてください」“Read, first John 4:18”と言おうとしていたのです。それを「第一に(最初に)、ヨハネ4:18を讀んでください」“Read first, John 4:18”と句読点を打ってしまったのです。花嫁がどんなにびっくりしたかが想像できるでしょう。一点一画もおろそかにできないという笑い話です。

E. G. ホワイトは5千人を養って、その残りのパン切れを集めさせた教訓から次のように言っています：

「同様な注意深さで、わたしたちは、心の要求を満たすために天からの食物を大切にしなければならない。わたしたちは神のすべてのみ言葉によって生きなければならないのである。神が仰せになったことは何一つ失ってはならない。わたしたちの永遠の救いに関する一つのみ言葉でも、おろそかにすべきではない。一言もむなしく地に落ちてはならない」(ミニストリー26)。

そういと、それは逐語靈感だと反論する人がいるでしょう。逐語靈感というのは、神が必ず「幸福」という言葉以外に使ってはならないという指示を与えることだと私は解しています。そういう意味で聖書は逐語靈感ではありません。預言者は「幸い」や「ハッピー」という言葉を使うかも知れません。しかし、その「アイデア」は削除されてはなりません。

- 現代訳聖書には聖句一句ごと全部削除されているところが16箇所ありますが、口語訳聖書はそれらを〔 〕で残しています。

	新共同訳	新改訳	口語訳	欽定訳
マタイ 17:21	†あれ? ない!	〔「ただし、この種のも のは、祈りと断食によら なければ、出ていきませ ん。」〕	〔「しかし、このたぐいは、祈り と断食とによらなければ、追い出 すことはできない〕	ある
マタイ 18:11	†あれ? ない!	〔人の子は、滅んでいる 者を救うために来たので す。〕	〔「人の子は、滅びる者を救うた めにきたのである〕	ある
マタイ 23:14	†あれ? ない!	〔わざわざが来ますぞ。 偽善の律法学者、パリサイ 人たち。あなたがた は、やもめたちの家をく いつぶしていながら、見 えのために長い祈りをす るからです。ですから、 あなたがたは、人一倍ひ どい罰を受けます。〕	〔偽善な律法学者、パリサイ人た ちよ。あなたがたは、わざわざい である。あなたがたは、やもめたち の家を食い倒し、見えのために長 い祈をする。だから、もっときび しいさばきを受けるに違いな い。〕	ある
マルコ7:16	†あれ? ない!	あれ? ない!	〔聞く耳のある者は聞くがよ い〕	ある
マルコ9:44	†あれ? ない!	あれ? ない!	〔地獄では、うじがつきず、火も 消えることがない。〕	ある
マルコ9:46	†あれ? ない!	あれ? ない!	〔地獄では、うじがつきず、火も 消えることがない。〕	ある
マルコ 11:26	†あれ? ない!	あれ? ない!	〔もしゆるさないならば、天にい ますあなたがたの父も、あなたが たのあやまちを、ゆるしてくださ らないであろう〕	ある

マルコ 15:28	†あれ? ない!	あれ? ない!	〔こうして、「彼は罪人たちのひとりに数えられた」と書いてある言葉が成就したのである。〕	ある
ルカ17:36	†あれ? ない!	あれ? ない!	〔ふたりの男が畑におれば、ひとりを取り去られ、他のひとは残されるであろう〕	ある
ルカ23:17	†あれ? ない!	あれ? ない!	〔祭ごとにピラトがひとりの囚人をゆるしてやることになっていた。〕	ある
ヨハネ5:3、 4	†あれ? ない! 4のみない	あれ? ない! 4のみない	その廊の中には、病人、盲人、足なえ、やせ衰えた者などが、大ぜいからだを横たえていた。〔彼らは水の動くのを待っていたのである。それは、時々、主の御使がこの池に降りてきて水を動かすことがあるが、水が動いた時まっ先にはいる者は、どんな病気にかかっている、いやされたからである。〕	ある
使徒8:37	†あれ? ない!	あれ? ない!	〔これに対して、ピリポは、「あなたがまごころから信じるなら、受けてさしつかえはありません」と言った。すると、彼は「わたしは、イエス・キリストを神の子と信じます」と答えた。〕	ある
使徒15:34	†あれ? ない!	あれ? ない!	〔しかし、シラスだけは、引きつづきとどまることにした。〕	ある
使徒24:6、 7、8	†あれ? ない! 7のみない	あれ? ない! 7がない	〔そして、律法にしたがって、さばこうとしていたところ、千卒長ルシヤが干渉して、彼を無理にわたしたちの手から引き離してしまい、彼を訴えた人たちには、閣下のところに来るようにと命じました。〕	ある
使徒28:29	†あれ? ない!	あれ? ない!	〔パウロがこれらのことを述べ終わると、ユダヤ人らは、互いに論じ合いながら帰って行った。〕	ある
ローマ 16:24	†あれ? ない!	あれ? ない!	〔わたしたちの主イエス・キリストの恵みが、あなたがた一同と共にあるように、アアメン。〕	ある

旧語訳、新改訳、新共同訳を比較してどちらを選びますか。

● さらに聖句の部分削除は現代訳にどれくらいあるでしょうか？

約180ある中で主なものだけ見てみましょう。部分削除は口語訳にも多くあります。しかし、「スタデイ バイブル」は欽定訳、明治訳、大正訳を脚注にほとんど記載しています。

	新共同訳	新改訳	口語訳	欽定訳
ダニエル 7:10	巻物が繰り 広げられた	幾つかの文 書	審判を行う者は その席に着き、 かざかざの書き 物が開かれた	books
詩篇19:1	天は神の栄 光	左に同じ	もろもろの天は 神の栄光をあら わし	左に同じ
詩篇23:1	主は羊飼	右に同じ	主はわたしの牧 者	左に同じ
マタイ5:44	ない	ない	ない	あなたがたを呪う者を祝福し、あ なたがたを憎む者に良いことをし なさい。
6:13	ない	[] とし てある	ない	国と力と栄えとは限りなく汝のも のなればなり
19:9	ない	ない	ない	出された女と結婚する者は誰でも 姦淫を犯すのである。
20:16	ない	ない	ない	召される者は多いが、選ばれる者は すくないからである。
25:13	ない	ない	ない	人の子が来る(時)
27:35	ない	ない	ない	彼らはわたしの衣服を分け、わた しの着物をくじびきにするという 預言者によって語られたことが成 就するためである。
マルコ6:11	ない	ない	ない	よくよくあなた方に言うておく。さ ばきの日にはその町よりは、ソド ム、ゴモラのほうが耐えやすいで あろう。
10:27	ない	ない	ない	十字架をとって
13:14	ない	ない	ない	預言者ダニエルによって語られた
ルカ4:4	ない	ない	ない	神の一つ一つの言葉によって
4:8	ない	ない	ない	サタンよひきさがれ

ルカ9:56	ない	ない	ない	人の子は人を滅ぼすためではなく、救うために来たのである。
9:2	ない	ない	ない	天にいる...みこころが天に行なわれるように、地にもなさせたまえ
22:64	ない	ない	ない	彼らはそのみ顔を打ちたたき
ヨハネ8:59	ない	ない	ない	彼らのまん中を通して出て行かれた。
16:16	ない	ない	ない	わたしは父のもとへ行くからである。
使徒 9:6	ない	ない	ない	震えながら、驚いて言った「主よあなたは私に何をして欲しいのですか」そして主は言われた。
ロマ 8:1	ない	ない	ない	肉によってでなく、霊によって歩く者たち
黙示録1:8	ない	ない	ない	初めであり、終わりである。
1:11	ない	ない	ない	私はアルパであり、オメガであり、初めであり、終わりである。

● 変更された聖句の一例

	新共同訳	口語訳	欽定訳
イザヤ 8:19, 20	<p>「人々は必ずあなたたちに言う。『ささやきつぶやく口寄せや、霊媒に伺いを立てよ。民は、命ある者のために死者によって、自分の神に伺いを立てるべきではないか』と。そして、教えと証しの書についてはなおのこと、『このような言葉にまじないの力はない』と言うであろう」</p> <p>※意味不明</p>	<p>「人々があなたがたにむかって『さえずるように、ささやくように語る巫女および魔術者に求めよ』という時、民は自分たちの神に求めるべきではないか。生ける者のために死んだ者に求めるであろうか。ただ教えと証とに求めよ。まことに彼らはこの言葉によって語るが、そこには夜明けがない。</p>	<p>「人々があなたがたにむかって『さえずるように、ささやくように語る巫女および魔術者に求めよ』という時、民は自分たちの神に求めるべきではないか。生ける者のために死んだ者に求めるべきであろうか。ただおきてと証とに求めよ。まことに彼らはこの言葉に従って語らなければ、そこには光がない。</p> <p>※最も明瞭で証の書はこれを使用。すべての意見、教義のテスト基準。</p>

創世記 1:11, 12, 21, 24, 25	それぞれに ※現存するすべてのものは、 神が創造されたのではない。	種類に従って ※類を越えては進化しない	Kind 類に従い
レビ記 16:29	苦行をする	身を悩まし	魂を悩ましなさい ※心へりくだり、深く探索することの意
詩篇 51:6	51:8あなたは秘儀ではなく誠を望み秘術を排して知恵を悟らせてくださる。	51:6 見よ、あなたは真実を心の内に求められます。それゆえ、わたしの隠れた心に知恵を教えてください。	口語訳と同じ
マタイ 5:28	みだらな思いで他人の妻を見る者はだれでも、既に心の中でその女を犯したのである ※他人の妻でなければいいのか。	だれでも、情欲をいだいて女を見る者は、心の中で既に姦淫をしたのである。	口語訳と同じ
1ヨハネ 1:9	罪を公に告白するなら、 ※「公に」は追加	自分の罪を告白するならば、 ※戸を締めて隠れた天にいます神に心を注ぐべき。	口語訳と同じ
ヘブル 6:19	「至聖所の垂れ幕の内 に」 ※「至聖所」は追加。昇天後すぐ至聖所に入られたとする人には好都合。	「幕の内」にはいり行かせる	口語訳と同じ
黙示録 14:7	神を畏れ、その栄光をたたえなさい。	神をおそれ、神に栄光を帰せよ。 ※健康改革の使命、信仰による義認の教理をここに見る。	口語訳と同じ
箴言 2:18	彼女の家は死へ落ち込んで行き、その道は死霊の国へ向かっている。 ※靈魂不滅説	その家は死に下り、その道は陰府におもむく。	口語訳と同じ

黙示録 22:18	わたしは証しする。	この書の預言の言葉を聞くすべての人々に対して、わたしは警告する。	口語訳と同じ
ダニエル 7:10	「 <u>巻物が繰り広げられた</u> 」	「 <u>審判を行う者はその席に着き、<u>かずかずの書き物が開かれた</u>。</u> 」 ※記録の書、覚えの書、命の書がある。	口語訳と同じ
詩篇 19:1	19:2天は神の栄光を物語り	「 <u>もろもろの天は神の栄光をあらわし</u> 」 ※聖書には第一の天、第二の天、第三の天という表現がある。	口語訳と同じ
イザヤ 28:10	「 <u>ツァウ・ラ・ツァウ、ツァウ・ラ・ツァウ（命令に命令、命令に命令）カウ・ラ・カウ、カウ・ラ・カウ（規則に規則、規則に規則）</u> <u>しばらくはここ、しばらくはあそこ</u> 」と彼らは言う。 ※新共同訳の同類、英文の脚注には預言者のたわごとであるとしている。	それは <u>教訓に教訓、教訓に教訓、規則に規則、規則に規則。ここにも少し、そこにも少し教えるのだ</u> 」。 ※聖書研究の原則（教育132）	口語訳、新改訳と同じ

	新共同訳	新改訳	口語訳	欽定訳
ダニエル 9:24 ~27	お前の民と聖なる都に対して七十週が定められている。．．． 9:25これを知り、目覚めよ。エルサレム復興と再建についての御言葉が出されてから油注がれた君の到来まで七週あり、また、 <u>六十二週あって危機のうちに広場と堀は再建される。</u>	口語訳と同じ	あなたの民と、あなたの聖なる町については、七十週が定められています。．．． 9:25それゆえ、エルサレムを建て直せという命令が出てから、メシヤなるひとりの君が来るまで、 <u>七週と六十二週あること</u> を知り、かつ悟りなさい。その間に、しかも不安な時代に、エルサレムは広場と街路とをもつて、建て直されるでしょう。	口語訳、新改訳と同じ

ダニエル9:24~27	<p>9:26その六十二週のあと油注がれた者は不当に断たれ都と聖所は次に来る指導者の民によって荒らされる。その終わりには洪水があり終りまで戦いが続き荒廃は避けられない。</p> <p>9:27彼は一週の間、多くの者と同盟を固め半週でいけにえと献げ物を廃止する。憎むべきものの翼の上に荒廃をもたらすものが座す。...</p> <p>※メシヤの到来、紀元27年、最後の1週、すなわち7年のちょうど真ん中、紀元31年という数字は出てこない。</p>	新共同訳と同じ内容	<p>9:26その六十二週の後にメシヤは断たれるでしょう。ただし自分のためにではありません。またきたるべき君の民は、町と聖所とを滅ぼすでしょう。その終りは洪水のように臨むでしょう。そしてその終りまで戦争が続き、荒廃は定められています。</p> <p>9:27彼は一週の間多くの者と、堅く契約を結ぶでしょう。そして彼はその週の半ばに、犠牲と供え物とを廃するでしょう。...</p> <p>※メシヤが現れたのは、紀元前457年から7週と62週=483年後、紀元27で、メシアが最後の1週=7年の真ん中、紀元31年で、ユダヤ国民の恩恵期間が終わったのが紀元34年であった。</p>	口語訳と同じ内容
ダニエル8:14	<p>彼は続けた。「日が暮れ、夜の明けること二千三百回に及んで、聖所はあるべき状態に戻る。」</p> <p>※一般的に1150日してエルサレムの聖所がもとの状態に戻されると解釈される。</p>	聖所はその権利を取り戻す。	<p>彼は言った、「二千三百の夕と朝の間である。そして聖所は清められてその正しい状態に復する」。</p> <p>※再臨運動は、大失望後、「聖所とは何か」「聖所の清めとは何か」をヘブル書、レビ記に言葉上のつながりを発見して再び大運動へと立ち上がったのであった。</p>	「二千三百日の間である。そして聖所は清めらるでしょう。」
ダニエル12:4	<p>「ダニエルよ、終わりの時が来るまで、お前はこれらのことを秘め、この書を封じておきなさい。多くの者が動揺するであろう。そして知識が増すでしょう」</p>	口語訳と同じ内容	<p>「ダニエルよ、あなたは終りの時までこの言葉を秘し、この書を封じておきなさい。多くの者は、あちこちと探り調べ、そして知識が増すでしょう」。</p> <p>※預言の知識、特に時に関する知識のこと。大下55。</p>	口語訳と同じ内容

ここまでの説明でも、「スタディ バイブル」が、口語訳を用いた理由と、「スタディ バイブル」がより良いことを知ることができるでしょう。

他にも多く削除、変更、追加がありますが、「スタディ バイブル」は、これらすべての状況を脚注に記しています。

2. 「スタディ バイブル」は、現代訳聖書にはなく、欽定訳にしかない聖句も脚注に記しました。

例を二つ挙げます。

- 1ヨハネ5:6,7です。

5:7 あかしをするものが、三つある。

5:8 御霊と水と血とである。そして、この三つのものは一致する。

欽定訳では「証するものが天に三つある。父と言葉と聖霊である。この三つは一つである」となっています。三位一体をあらわすみ言葉です。

マタイ6:13

「国と力と栄えとは限りなく汝のものなればなり」

英語欽定訳、明治訳、大正3年訳までにはありましたが、それ以降はありません。

3. 「スタデイ バイブル」は、靈感の、証の書の注解があるので非常に助けになります。

それは、神学的、論理的な注解というよりは、クリスチャンの実際生活に役立つ霊的教訓に重点を置いています。

また、様々な教理の風が吹きまくる今日ですが、「健全な教理」「現代の真理」の重要な点の明確な理解のために、E. G. ホワイトの注解は、非常に助けになります。

たとえば、マタイ5:48の「それだから、あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者となりなさい」のところは「スタデイ バイブル」新約48ページに、「罪のない状態」と注解されています。そればかりではなく、高い理想と神が与える強い動機、原動力について証の書の言葉が載せられています。エペソ5:27のE. G. ホワイトの注解を「スタデイ バイブル」新約428ページに見てください。「罪なき状態に到達する」約束があります。

キリストの人性について何と書かれているでしょう。「キリストの勝利と服従は、真の人間の勝利と服従にほかならない。我々は、主の人性に関する誤った見解のために多くの誤った結論を下す。．．．天父に対するキリストの服従は、人に要求されている服従と同じものであった。．．．主イエスは我々の世界に、神に何がおできになるかを示すためではなく、すべての非常事態の助けのために備えられている神の力に対する信仰によって、人間には何ができるかを示すために来られた」 「スタデイ バイブル」新約496ページ。

今後の預言の解釈にも、E. G. ホワイトがヒントを与えていることは大きな助けになるでしょう。たとえば、「スタデイ バイブル」旧約1170ページに、「ダニエル12章を読み、研究しようではないか。それは終わりの時までには、我々すべての者が理解を必要とするであろう警告である」とあります。七つのラッパを過去におく我々に、「スタデイ バイブル」新約592ページの引用文は研究すべき供述ではないでしょうか。「我々の前にある厳粛な事件はまだ起こっていない。次々とラッパの音が鳴りわたり、地の住民の上に鉢が次々と注がれる。非常に重大な出来事が我々のすぐそばにきている」。

その他多くのクリスチャン生活に役立つ引用文が翻訳されています。

- 単調な生活は靈的成長に良くないので神は我々の人生の流れを変えられる。「スタデイ バイブル」旧約 p 1057
- 自己嫌悪するまで教会の背信が深くなる。「スタデイ バイブル」旧約P985
- 表情、声の調子にも気を付けよ。「スタデイ バイブル」旧約 p 980
- 天の聖所で進行している厳肅な事実を見ると、汚れた唇のことをイザヤのように 嘆く。「スタデイ バイブル」旧約P917
- ダビデは周囲の年老いた者たちの悪癖に悩み、自分を見捨てないでくださいと祈った。「スタデイ バイブル」旧約p801
- 自己高揚は危険な要素である。それは、それに触れるすべての者を傷つける「スタデイ バイブル」 「スタデイ バイブル」新約570
- 我々のために払われた価、犠牲を考えると、非常に高潔な状態に到達することができるという観念を起こさずにはおられない。「スタデイ バイブル」新約48

翻訳聖書に多くの違いがあったとき、靈感の書一証の書の注解が決定的な判断になります。なぜなら、「預言者の靈は預言者に服従する」からです(1 コリン14:32, 33)。「靈によって靈のことを解釈する」口語訳 1 コリント2:13。「解く」新改訳。「説明する」新共同訳。

こんな時どうしましょう。

- 創世記2:6「泉」霧(欽)。

[口語訳] しかし地から泉がわきあがって土の全面を潤していた。

[新改訳] ただ、霧が地から立ち上り、土地の全面を潤していた。

[新共同訳] しかし、水が地下から湧き出て、土の面をすべて潤した。

証の書はあ上94に「地は、霧や露でうるおされていた」と注解しています。

- ルカ10:1七十人(欽・文・改)。

[口語訳] その後、主は別に七十二人を選び、行こうとしておられたすべての町や村へ、ふたりずつ先におつかわしになった。

[新改訳] その後、主は、別に七十人を定め、ご自分が行くつもりすべての町や村へ、ふたりずつ先にお遣わしになった。

[新共同訳] その後、主はほかに七十二人を任命し、御自分が行くつもりすべての町や村に二人ずつ先に遣わされた。

証の書は2希望288、キ実288に70人と言っています。

- マルコ10:21「. . . しかして来り、十字架を取りて我に従え」(欽・明・大正)。

[口語訳] イエスは彼に目をとめ、いつくしんで言われた、「あなたに足りないことが一つある。帰って、持っているものをみな売り払って、貧しい人々に施しなさい。そうすれば、

天に宝を持つようになろう。そして、わたしに従ってきなさい」。

〔新改訳〕 そのうえで、わたしについて来なさい。」

〔新共同訳〕 それから、わたしに従いなさい。」

証の書は2希望327、キ実371に欽定訳から引用しています。

● イザヤ14:12 暁の子ルシファーよ(欽)。暁の子、明けの明星よ(改)。

日本語の聖書には「ルシファー」という言葉がありません。「明けの明星」では、西欧人には通じません。「スタデイ バイブル」では脚注に欽定訳を記しています。

〔口語訳〕 黎明の子、明けの明星よ、あなたは天から落ちてしまった。もろもろの国を倒した者よ、あなたは切られて地に倒れてしまった。

〔新改訳〕 暁の子、明けの明星よ。どうしてあなたは天から落ちたのか。国々を打ち破った者よ。どうしてあなたは地に切り倒されたのか。

〔新共同訳〕 ああ、お前は天から落ちた。明けの明星、曙の子よ。お前は地に投げ落とされた、もろもろの国を倒した者よ。

証の書は欽定訳を使用しています。

● ハガイ2:7「諸国の希望」(欽)。

〔口語訳〕 わたしはまた万国民を震う。万国民の財宝は、はいつて来て、わたしは栄光をこの家に満たすと、万軍の主は言われる。

〔新改訳〕 わたしは、すべての国々を揺り動かす。すべての国々の宝物がもたらされ、わたしはこの宮を栄光で満たす。万軍の主は仰せられる。

〔新共同訳〕 諸国の民をことごとく揺り動かし、諸国のすべての民の財宝をもたらし、この神殿を栄光で満たす、と万軍の主は言われる。

証の書は1希望42、国下201に欽定訳使用しています。

● 証の書は、欽定訳の誤りさえ正す権威を持っています。

たとえば、ダニエル8:12, 13, 11:31, 12:11の「常供の燔祭」欽定訳では「燔祭」はイタリックになっています。それについて、現代の預言者は何と言っているのでしょうか。

「それから、「常供の燔祭」(デイリー・サクリファイス) (ダニエル書8:12)の「燔祭」(サクリファイス)という言葉は、人間の知恵によって附加されたもので、本文にはないものであることをわたしは見た」初代文集155。

こんなにすばらしい「内密」の情報がSDAに与えられていることに対して我々はほんとうに感謝しなければなりません。

「スタデイ バイブル」には、もともとSDAコメンタリー7巻のE.G. ホワイトの注解にすでに翻訳されたものにわずかばかり追加していますが、これ以外のE.G. ホワイトの聖句の注解は、大争闘シリーズや、実物教訓、祝福の山、キリストへの道、初代文集、その他にすばらしい注解をみることができます。それを探するためには、691頁に「E.G. ホワイト著書の聖句索引」があります。但しこれは英文の頁ですから、日本語の何頁になるかを知るためには「英和ページ対照表」が用意されています。

3. 脚注には、度量衡、地名、人名がその都度それぞれのページに記されているので非常に便利です。

1 キュビトは現代のどれくらいの長さなのか。500シケルは現代のどれくらいの重さなのか、重さ、長さ、面積、固体、液体の単位が現代のどれくらいになるのか、まとめたものが612頁にありますが、「スタデイ バイブル」の良いところは、それぞれの頁にも説明されているということです。

地名、人名の意味も説明されています。

旧約時代の父祖アダムから新約時代の使徒たちまでの年代の研究も興味深いです。アダムから、ノア、そしてアブラハムまで、人類の寿命はどのように変化したかも607ページにみるができます。

4. 多くの図表や地図を入れました。

四福音書には、事件、奇跡、たとえば順序通りに記されておりません。イエスの一生の順序を知るために、新約聖書のはじめの「対観和合」は非常に役立ちます。

地図も各所に入っています。たとえば、ダビデがソウルに追われたときに詠った詩篇54篇の背景を知ると理解が深くなります。詩篇34篇の地図と歌をごらんください。

昔、イスラエル人が幕屋を持ち運ぶときどのような秩序のうちに行進したかを207ページに見てください。

5. 各書の序論に豊富な情報がもられています。

創世記であれば、そのタイトル（表題）がどうして付けられたか、その著者は誰か、どんな歴史的背景のもとにこの書が記されたのかが説明されています。また各書のアウトラインは、秩序だった研究に非常に役立ちます。

誰が書いたのか、学者間でいろいろな意見に分かれていることがありますが、この点でもE. G. ホワイトは威力を発揮します。

6. ダニエル書、黙示録の預言研究の助けとして、カラーの絵を挿入しました。

たとえば、ダニエル書2章、7章、8章を開いてみてください。黙示録の6章、8章、13章を見てください。

出エジプト記36章—「スタデイ バイブル」旧約p136には、聖所の絵があります。

7. 聖書語句辞典がついているのは便利です。

必要な時に必要な聖句が思い出せないのはいらいらさせられます。そのようなときにコンコルダンスは非常に役立ちます。「わたしは真理であり、道であり、命である」という言葉はどこにあったかと調べたいとき、聖句語句辞典791ページの「真理」を探せばヨハネ14:6と出ています。「真理」で探してもないときには、「道」「命」で検索することもできます。しかし、あくまでも抜粋なので、教文館やいのちのことば社から出されている聖書語句辞典、コンコルダンスにはかないません。

8. 「スタデイ バイブル」には折りにかなったみ言葉「金のりんご」が用意されています。

赤ちゃん誕生、入学、卒業、就職、ビジネス、伴侶の選択、死に直面する、病気の時、老年、失望、孤独、恐怖、困ったとき、人生の様々な事情、状況において、神のみ言葉はどんなに慰めとなり、力となることでしょうか。電報や手紙で神のみ言葉を贈りたいときにも役立ちます。

9. 系統だった聖書研究、また他人に聖書の基礎教理を紹介したいとき、「主題別聖書研究」は非常に便利です。

私たちは非常に忙しい時代、情報過多の時代に住んでいます。聖書研究用の材料はたくさん出されています。しかし、いきなり聖書研究をほどこす事情に立たされた時、急いで聖書の個所を調べてからでは間に合わないことがあります。「スタデイ バイブル」には32課からなる聖書研究が用意されています。

日頃から、この重要な教理の聖句を良く研究しておきますと、質問されたときにすぐ聖句をもって答えることができます。「礼拝の日は日曜日ではないのですか」と聞かれたら出エジプト記20：8-11の聖句655ページの6番にあります。「キリストや弟子たちは安息日を守りましたか」と聞かれたら、8番のルカ4：16、9番の聖句をもって答えることができますね。「キリスト教派がたくさんありますが、真の教会はどこなんですか」と聞かれたら、671ページの10番で答えることができるでしょう。「終末時代の真の教会には三つの特徴があると書かれています。聖書でそれを見つけたら分かるはずです」と。

10 「スタデイ バイブル」は聖句の場所を見つけやすいです。

よほど聖書に慣れないと、何章何節と言われてもすばやく見つけることは困難です。「スタデイ バイブル」は章は青で、節は全部左にそろえたので見つけやすくなりました。各巻の名前は歌で覚えていると便利です。

標準の口語訳聖書のページも余白に青イタリックで記しています。

11. 本文は、画期的な横書きレイアウトです。

英語などで余白に説明を書きたいときに横書きの方が便利ではないでしょうか。慣れるまで少々時間がかかるかも知れません。

12. 「スタデイ バイブル」の裏表紙には「見よ、世の罪を取り除く神の小羊」犠牲のイエス、聖所で取りなす大祭司イエス、やがて再臨なさる王なるイエスをカラーの絵で表しました。聖書にあらわされた救済の三大柱です。

13. 「十戒」がはじめのページに、「主の祈り」が終わりのページに挿入されています。

十戒がどこにあるのか、どこから始まりどこで終わるのか知らない人のために入れました。主の祈りも最後の「国と力と栄えは限りなく汝のものなればなり」が現代訳からは削除されています。大正三年訳まではありました。削除されてはならない靈感の言葉です。祝福の山150頁は靈感の言葉として預言者は解説しています。

ここまで検証してみると、「スタデイ バイブル」は、画期的なすばらしい聖書であること

がお分かりいただけだと思います。

エキュメニカル（教会一致）聖書がローマの主導で世に出回っている時代に、私たちは、ますます純粋な「混ざりもののない聖書」を求めて、信仰を純粋なものにしていきたいものです。

「あなたがたは、聖書の中に永遠の命があると思って調べているが、この聖書は、わたしについてあかしをするものである」ヨハネ5:39。

「聖書を探り調べなさい」欽定訳（脚注にあり）。聖書をつぶさに調べるために「スタデイ バイブル」を大いに役立てたいものです。そうするとき、私たちは、主イエスの姿をますますはっきりと見ることができるよう。現代は、キリスト教界においても、主観的な体験に重きをおき、深い神のみ言葉の学びや、神の御心への服従を軽視し、無視する、浅薄で、およそ聖霊の内住とは言い難い感情の興奮をリバイバルと呼んでいる時代です。教会の中にじわじわと入り込んでいる現代心霊術（ニューエイジ的思想）の波は、我々キリスト者を原始キリスト教会の「健全な教理」（テトス2:1、欽定訳）からほど遠い沖へ押し流そうとしています（大下190、初424）。その大波は今や選民をも押し流そうとしているのです。

「聖書の真理によって心を堅固にした人たち以外には、誰も最後の争闘に耐え抜くことができない」大下359。

「聖書を熱心に研究し、真理の愛を受けたものだけが、世界をとりこにする強力な感わしから守られる。聖書のあかしによって、これらの者は欺瞞者サタンの変装を見破る。すべての人に試みの時がやってくる。．．．神の民は、自分の感覚的証拠に屈しないほど、今神のみ言葉に固く立っているだろうか」大下400。

この「スタデイ バイブル」は自分で聖書を学ぶ目的で作られた研究用聖書なのです。この神の摂理に感謝したいものです。

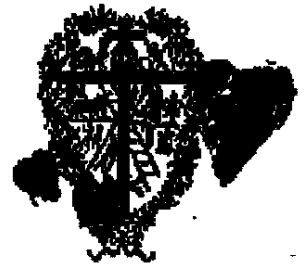


人間の像

ダニエル書と黙示録の中で、最も主要な預言はダニエル書2章にある。ここで、キリストの王国設立まで歴史を支配する王国が人間の像によって象徴されている。もし私たちがこの象徴の重要性に気付かなければ、ダニエル書と黙示録に示されている真理の大いなる教訓の多くをつかみ損ねるであろう。生まれつき罪深い人間の像が、石がそれを砕くまで場面を支配している。ダニエル書で述べられている王国とは、人間の王国である。それらは人間の才能、はかりごと、発明の結果できたものである。人間の歴史とは、人間の心を暴露したものに過ぎない。像は退化していく。故に、人間の黄金の夢は人間自身より優れたものではあり得ない。それは粘土に過ぎない。人間の進歩は上に向かっていくのではなく下に向かっていく、と像は私たちに教えている。人間の像があるところには退化がある。ローマは地上の人々を打ち砕き、傷を与えた。それは人間の像（かたち）と心を表していたからである。

人間の心

ダニエル書7章では、人間の像が獣によって象徴されている。人は、神なしでは獣のようである。「……人間の心は利己的で、罪に満ち、かつ邪悪である」（レビュー・アンド・ヘラルド1885年5月5日）。人間は神なくしては、自然界の獣より悪いものにまで退化してしまう。ダニエル書7章の第四の獣は、自然の象徴で表現し得るとの獣よりも醜く、恐ろしいものであった。



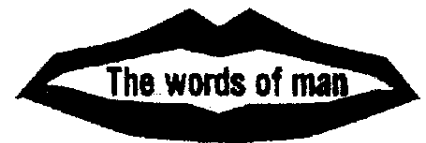
バビロンはしし（ライオン）によって象徴されている。ライオンは王者らしく堂々としている。ユダ王国とその王でさえ、威厳のあるライオンによって象徴されているほどである。ところがダニエル書7章のライオンにおいては、悲惨などんでん返しがある：「……人の心が与えられた」のであった（ダニエル7：4）。人の「心はよろずの物よりも偽るもので、はなはだしく悪に染まっている」（エレミヤ17：9）。ダニエル書に描かれている歴史は人間の心の暴露であることを認めない限り、預言の中で神が与えようとしておられる教訓を私たちが学ぶことはないであろう。人間全体の自我について明瞭な理解を得るにつれて、私たちが自分自身の自我について知ることを神は望んでおられる。



人間の目

神が法王教を断罪しておられる部分を読み、反キリストが分かったと言って気をよくするのは容易なことである。しかし、私たちは法王教が何であるかを本当に理解しているだろうか。法王教がどのようにして存在するに至ったのかを理解しているだろうか。神の言葉は次のように述べている：「見よ、この小さい角には、人の目のような目があり、また大きな事を語る口があった」（ダニエル7：8）。法王教が人間の悟りという目によって特徴付けられている。キリストは純潔な教会を設立なさった。その教会は純潔な統治と信仰を持っていた。ところが聖職者たちが、自分たちの悟りという目で教会統治の問題を見るようになったとき、彼らは徐々に聖職の階層と人間の權威の階級制度を発達させてきた。その結果、法王教が出来上がったのである。人間の学識と神学が、受肉とイエスの罪なき性質の奥義を無理に説明しようとした結果、マリヤの無原罪懐胎というカトリックの教理が出来上がったのであった。罪なき状態に達していない未熟なクリスチャンが如何に天国に入れるかを生まれながらの理性でもって説明しようとしたとき、煉獄という教理が考え出されたのであった。法王教は徐々に、またほとんど感知できないほどに、神の啓示を人間の教えとすりかえた結果生じたものである。法王教の「目」と同様に、その「口」もしかりであった。それは人間の像（かたち）、人間の心、人間の目、人間の口を表したものであった。従ってその言葉、すなわちその教義や布告は人間の教理や戒めであったのである。

人間の言葉



法王教とは、全体的、組織的意味における人間の性質を露呈したものである。最初、法王教の教理の不可謬性（決して誤り得ないこと）は、アダムとエバが罪を犯したときのエデンの園に現れた。なぜ禁断の木の実を食べたのかと尋ねられたとき、どちらも他に責任を転嫁した。男は女に、女はへびに、とどのつまりはすべてを神のせいにしたのであった。自己を正当化し自分に非はないとする精神は、人間が生まれながらに持つ精神である。反キリストの精神とは神の位置に自らを置くことであるが、これが人間の原罪であることを私たちは理解しなければならない。また、宗教的不寛容と迫害の精神も、人間の心に根付いているものである。ローマだけでなく人間の心も、あらゆる汚れた憎むべき鳥の巣くつなのである（黙示録18：2参照）。法王教においては、人間の像、人間の心、人間の目、人間の口が究極的に表されているのである。使徒パウロはダニエル書の預言について言及し、この勢力を不法の者（罪の人）と呼んでいる。

人間の数字



黙示録はダニエル書の預言的テーマを継続させている。第13章は、地上に住むすべての人に臨むであろう宗教危機に焦点を当てている。大いなる光と自由を誇る国において獣の像が形作られる。すべての人は「新しい、高められた宗教的体制」の内に

あって、礼拝することを要求されるであろう。多くの人は、獣がどれほどすばらしいものとして提示されることになるか夢想だにしない。明らかに像の形成は、人間がなし得る善の究極となることだろう。つまり、神なしの人間的「善」として。地に住むすべての人は、驚き恐れてそれを拝する。ところが、全人類の希望として現れるこの像を崇拜しない残りの民がいるのである。宗教体制の至る所に、ある数字が書かれていることを彼らは認識する。それは神の数字ではない。御言葉はこう述べている：「……その数字とは、人間をさすものである。そして、その数字は六百六十六である」（黙示録13：18）。つまり、すべての機関、団体、制度は人間の数字を帯びるであろうということである。霊的識別力を持つ者たちにとって、666が識別されるようになる。

十四万四千は獣とその像また刻印に勝利するだけでなく、彼らはその名の数字に打ち勝つと聖書は述べている（黙示録13：17；15：2参照）。これは単に、法王のかぶりものに書かれている何かに打ち勝つこと以上の意味がある。それは、人間によって腐敗させられたすべての宗教に打ち勝つことである。人間の数字は6である。6は完全を表す数字7に足りない。人間がどんなに努力しようと、いつでも完全には足りず、人は罪の故に神の栄光を受けられなくなっている（神の栄光に足りなくなっている）。何事をするにも神がそこにおられなければ、それは罪となるのである。

この事のすべてにおいて、神が私たちに学んでほしいと望まれる大原則がある。「神から来る宗教だけが、神に至る唯一の宗教なのである」（教会への証9巻、156ページ）。

人間の宗教

神の子らの内になされた最初の宗教論争が、カインとアベルの間で起きた。当時のいさかいの本質を研究するなら、それは本質において、神の民が間もなく突入しなければならぬ最後の大きいなる戦いと同様のものであることを理解するであろう。

カインは宗教的な人物であった。どうしてそれが分かるのだろうか。彼は祭壇に捧げ物を持ってきた。彼には彼なりの礼拝のやり方があった。その礼拝は彼を神へと導いたのだろうか。否である。何故か。「神から来る宗教だけが、神に至る唯一の宗教なのである」。カインの礼拝に対する概念は、神からのものではなく、自分勝手に確立したものであった。彼の宗教は、彼がどのように礼拝すべきかを自分で考え出したものであった。それは彼自身の心から来ていた。それは彼が勝手に得た悟りの結果であった。彼の宗教は人間の数字を帯びていたのである。

しかしそれだけではない。長男だったカインは祭司でもあった。アベルは彼の弟であり、ある程度の宗教的權威が彼に授けられていたので、弟は自分の宗教的信条を兄に委ねるべきであると考えたのであった。ところがアベルは、自らの宗教を人間から受けることを拒否した。彼は神から来る宗教だけを欲した。それだけが神に至る唯一の宗教であったからである。

人間の宗教には神の力が欠けているために、人は自分自身の權威でもってその不足を補おうとする。これが神への熱心さとみなされる訳である。そして一連の出来事においては、カインは義憤の余り弟を殺害したのであった。その時神は、カインにあるしるしを付けられた。ここに私たちは獣の刻印の型を見ることができる。最後の大きいなる戦いにおいて、人間

の宗教に従うすべての者は、そのしるしを受けるであろう。

ここで一息入れて、私たちの心に深くしみる教訓を学んでみよう。次に挙げる引用文の一語一語が、私たちの心にしっかりと刻まれることを願うものである：

「牧師であれ信徒であれ、誰であっても、他のいかなる人の理性をも強要あるいは支配しようと試みる者は、サタンの手下となって彼の働きをする。そして天においては、カインのしるしを帯びている者とみなされるのである」（バイブル・コメンタリー1巻、1087ページ）。

イエスとユダヤ人指導者

イエスとユダヤ人指導者たちとの間のいさかいにおいても、同じ原則が例示されている。ユダヤ人国家の指導者たちは、宗教的權威を有する立場にあった。ところがイエスは率直に、彼らの宗教は人々を神に導くことができないと言われたのであった。何故？それが神から来る宗教ではなかったからである。彼らは「人間のいましめを教として教え」ていると、イエスは言われた。彼らは真理を教えることよりも、自分たちの宗教的權威を維持することに関心があった。再びイエスは彼らに言われた：「あなたがたは自分の父、すなわち、悪魔から出てきた者であって、その父の欲望通りを行おうと思っている。彼は初めから、人殺しであって、真理に立つ者ではない。彼のうちには真理がないからである。彼が偽りを言うとき、いつも自分の本音をはいているのである。……」（ヨハネ8：44）。ここで、イエスは誤りを指さしておられる。サタンは偽り者である。なぜなら彼が語る時、彼は自分自身のうちに生じる事柄を語るからである。だから人が自分自身の内に生じる事柄を語る時、それは偽り以外の何ものでもあり得ないのである。彼らの宗教は人間の像（かたち）、人間の心、人間の目、人間の言葉を帯びていて、そこに書かれているものはすべて人間の数字なのである。

一方イエスが教えられた宗教は人を神へと導いた。それは神から来ていたので、神に至らせるものであった。「わたしの教はわたし自身の教ではなく、わたしをつかわされたかたの教である。神のみこころを行おうと思う者であれば、だれでも、わたしの語っているこの教が神からのものか、それとも、わたし自身から出たものか、わかるであろう」（ヨハネ7：16、17）。

カインのように、人間の戒めを教えた者たちは、サタンの熱心さをもってそれを教えた。その熱心さは、神に対する熱心さのように見えた。自分たちは神の務めを行っているとうぬぼれて、彼らは神の御子を殺害したのであった。何であって人間の上書きを帯びている宗教は、欺瞞に満ちているのである。

人間のアイドル—自我



神の宗教と人間の宗教が、使徒の言葉によって効果的に対比されている：

「兄弟たちよ。あなたがたに、はっきり言うておく。わたしが宣べ伝えた福音は人間によるものではない。わたしは、それを人間から受けたのでも教えられたのでもなく、ただイエス・キリストの啓示によったのである。ユダヤ教を信じていたころのわたしの行動については、あなたがたはすでによく聞いている。すなわち、わたしは激しく神の教会を迫害し、また荒しまわっていた。……先祖たちの言伝えに対して、だれよりもはるかに熱心であった」（ガラテヤ1：11-14）。

ルターの宗教とカトリック教についても同じことが言える。宗教論争において危機に瀕した原則はいつの時代でも同じなのである。



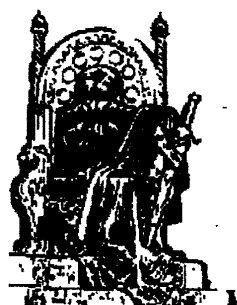
最後の争闘



黙示録13章と14章で提示されている最後の争闘は、「人のおきてと主の戒めとの間の、また、聖書の宗教と作り話や言い伝えの宗教との間の、戦い」である（大争闘下344ページ）。聖書の安息日と日曜日が、それぞれの側の顕著な特質となる。安息日は神から来ている。そこには、礼拝に関する神の意図がある。従って、真の安息日遵守は神に至る。日曜日の神聖化は、キリストの復活を尊重するという人間の考えに基づいていた。人がどのように考えようと、神が日曜安息日を是認なさることはない。それはカインの捧げ物と同じである。神から来る宗教だけが神に至るのである。人間に源を置くものは偽りである。日曜日の神聖化は人間の像なのである。それは人間の心から出たものなのである。人間の悟りという目がそれを形作った。人間の言葉が、日曜日の神聖化を宣言したのであった。人間の数字も至るところに書かれている。このために、神は獣の刻印を特に厳しく譴責されたのであった。法王教の安息日を尊重するようすべての人を強いるのに、強制がふんだんに用いられるであろうことを預言は示している。カインがそうであったように、人間から来る宗教は強制、殺人、また神からの別離に導くのである。

ラオデキヤにおける問題

人間の支配



もし人が、カトリック教会や日曜日を遵守するプロテスタント諸教会から逃れ出るなら、その人は獣の刻印を受けることを免れるだろうと一般に考えられている。この概念は、真理の本当の原則に関する極めて表面的な理解を示している。人間の宗教の問題とは、要するに、すべての人の心なのである。人間がその宗教を全的に神から受けること、すなわち霊とまことにおいて神を礼拝するというのは、自然なことではない。人間の心には、人間を礼拝する傾向がある。初代教会の時代、この傾向が徐々に発達して、ついには法王教が形作られるまでになった。教皇制度は、ローマ教会だけに存在するのではない。教皇制度は人間の精神そのものなのである。人が自ら宗教の務めに立ち入っている限り、どの教会にも教皇制度が存在するであろう。今日の神の民は、初代キリスト教徒よりも欺瞞に対して免疫ができているとどうして言えるだろうか。

まさしくこの事柄について私たちに与えられている靈感による勧告を考察してみよう：

「教会は長年の間人間に目を向けてきており、人間に多くの事を期待しているが、永遠の生命という我々の希望の中心となっているイエスに目を向けていない」（牧師への証93ページ）。

「また世界総会は、間違った考えと原則でもって自ら腐敗してきている。……ユダヤ国家があのような思想と行動に陥ったのは、突然のことではなかったことを私は示された。世代から世代へと進むにつれ、彼らは真理に相反する原則を遂行し、彼らの宗教に人間的思いの産物である思想と計画を混ぜることで、誤った理論に取り組んでいった。人間の作り事が最上のものとされた。……サタンの方法はある結末に至る。それは、人間を人間の奴隷とすることである。……支配しようとする精神が、我々の教団の指導者たちに広まっている。……彼らはローマ教の足跡をたどっているのである」（同359-362ページ）。

神の民に宛てられたこの証は、1895年に書かれた。当時教会内で膨れ上がっていた、人間の器を拝む偶像礼拝に関する証である。その全章にわたって、肉なる者を自分の腕とすることに対する警告が貫かれている。教会の内に働いていたこの人間的傾向を、証の書は何と呼んでいるのだろうか。実は、ローマ教の精神と呼んでいるのである。

「教会員たちが人間的手腕を頼みとし、それに依存するよう教育されているために、我々の教会は弱体化してきている」（同380ページ）。

「長年にわたり、責任ある地位に置かれる人々が神の嗣業の上に君臨するという傾向が強まってきており、こうして教会員たちから、神の指示に対する鋭敏な必要感と、彼らの義務に関して神に助言を求める特権を正しく評価する感覚を取り除いているのである。……私はこの事を最大限に書こうと思う。なぜなら牧師たちや民衆が、知恵を求めて有限な人間に益々信頼し、肉なる者を自分の腕とするよう誘惑されているのを私は示されたからである。……このメッセージは、我々の教会の至るところで語られている。既に入ってきている偽りの経験において、人間の器を高め、人間の判断に信頼するようある者たちを導き、そうして人間の思いによる支配に委ねるための決定的な影響が盛んに働いている。この影響が人々の心を神からそらしている。セブンスデー・アドベンチストとしての様々な階層において、このような経験が深まり育つことを神は禁じておられる」（同477-484ページ）。

同じ本からもう一つだけ引用しようと思う。その一語一語が、私たちの心に深く浸透することを願うものである：

「我が民が陥りやすい大きな危険は、『人を頼みとし肉なる者を自分の腕と』することである。自分で聖書を探り調べたり、証拠を慎重に検討したりする習慣のない者たちは、指導者らに信頼を置き、彼らの判断を受け入れる。こうして多くの者たちは、もしこれらの指導的立場にある兄弟たちが受け入れなければ、神がお送りになる使命そのものを拒むであろう」（同106, 107ページ）。

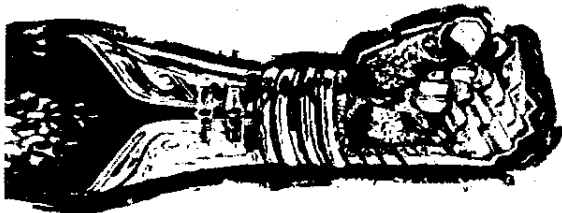
反キリストの精神は残りの民の間にさえ存在することを、証の書から十分実証してきた。神が設立なさったセブンスデー・アドベンチスト教会に何か本質的な間違いがあるというのではなく、人間のただ中に存在する問題を私たちは理解しなければならないのである。それ

は、六千年にわたって神の民の内に現れてきた病である。民として私たちの特徴となってきた大罪の一つは、人間という器を崇める偶像崇拜である。神の恵みによってこの病が癒され得ない限り、人の名の数字に決して勝利することはできない。神の位置に人間を居座らせるというこの制度の結末は、その性質そのものにおいて獣の刻印であり、それ以外ではあり得ないのである。先に挙げた引用文で指摘されているこの悪から、私たちが民として完全に癒されない限り、私たちは獣の刻印へと向かっていることになるのである。

私たちの預言者が亡くなって以来、問題は減少していると道理にかなった主張のできる人は誰もいない。今日のイスラエルにおいて問題が増加してきていることは、あらゆる証拠により明白である。世紀の変わり目（19～20世紀）に教会が直面した致命的背教のアルファは、自然界の生命と神格としての神とを混同させる試みであった。あらゆる徴候により、ホワイト夫人が警告した背教のオメガは、人間の声を神の声と人々に教える風潮が教会内に増大していくということであった。このようにして、我が教会内の多くの者たちは、法王の無謬性を世界総会の無謬性に置き換え、臆することなく、闇雲にそれを擁護するのである。

最終時代の教会内に現れるであろう背教のオメガについて、エレン・ホワイトは次のように書いている：

「私は我が民に、エゼキエル書28章を学ぶよう要請する。ここでの描写は、主として墮落天使ルシファーに当てはまるとはいえ、更により広い意味を持っている。一つの存在だけではなく、全般的傾向が述べられていて、我々はそれを目の当たりにするのである。この章を忠実に学ぶなら、神が民にお与えになったすべての光の中を歩もうと真理を探究している者たちを、これら最終時代の感わしに欺かれないように導くであろう」（バイブル・コメンタリー4巻、1162ページ）。



人間の圧制

神の民を聖所へ、中でも至聖所における聖所の清めの経験へと召し入れるメッセージがある。神の言葉をもってこのメッセージに反論を試みる人はほとんどいない。それは不可能だからである。ならば、これに反対する人たちは、一体何を根拠にしているのであろう。教権（教会の権威）である。いつの時代でも、真理と教権との間でふりが行われてきた。どの宗教論争においても、その本質は変わらない。論争を強制によって解決しようとする者たちには、次の靈感の言葉が当てはまるのである：

「牧師であれ信徒であれ、誰であっても、他のいかなる人の理性をも強要あるいは支配しようと試みる者は、サタンの手下となって彼の働きをする。そして天においては、カインのしるしを帯びている者とみなされるのである」（バイブル・コメンタリー1巻、1087ページ）。



警告

人間の空しさ

人は教派を変えることによって偶像礼拝（人間崇拜）の罪から逃れる訳ではないことを、理解していなければならない。確かに、日曜日を守る諸教会を出ることは獣の刻印から逃れる過程の一部ではあるが、それがすべてではない。たとえ現代の真理を受け入れたとしても、それが安全の保証とはならない。そこで、次の質問を自らに問いかけていただきたい：「人間という器を拝む偶像崇拜が、現代の真理の名において定着しようとしてはいないだろうか？」。現代の真理を信じると公言する人たちの心に、より深い恵みの働きがなされない限り、私たちは生きて天のカナンに移されることのなかった父祖たちの道を歩むことになるだろう。人間の像、人間の心、人間の目、人間の言葉と教え、そして人の名の数字に対して完全な勝利を収めるであろう民を、神は召しておられる。イザヤ書の中に、現代のためのメッセージが記されている：

「呼ばれる者の声とする、『荒野に主の道を備え、さばくに、われわれの神のために、大路をまっすぐにせよ。……こうして主の栄光があらわれ、人は皆ともにこれを見る。これは主の口が語られたのである』。声が聞こえる、『呼ばわれ』。わたしは言った、『なんと呼ばわりしましょうか』。『人はみな草だ。その麗しさは、すべて野の花のようだ。主の息がその上に吹けば、草は枯れ、花はしぼむ。たしかに人は草だ。草は枯れ、花はしぼむ。しかし、われわれの神の言葉はとこしえに変わることはない』。よきおとずれをシオンに伝える者よ、高い山にのぼれ。よきおとずれをエルサレムに伝える者よ、強く声をあげよ、声をあげて恐れるな。ユダのもろもろの町に言え、『あなたがたの神を見よ』と」（イザヤ40：3-9）。

長年にわたり、教会は人間を仰ぎ、人間に多くを期待してきた。神は「人はみな草だ」と呼ばれるよう、私たちを召しておられる。それから「あなたがたの神を見よ」と呼ばれるようにと。私たちすべての者に降りかかろうとしている大嵐の中、誰が一片の草に身を寄せたいと考えるだろうか。覚醒メッセージは、聖所の至聖所において、現在イエスがなしておられる働きを指し示している。ここに、獣の刻印から守られるための唯一の保護策がある。

新しい契約

至聖所におけるイエスの務めは、新しい契約の完全な成就—罪の除去、生ける神の印—を私たちに提供している。それは、全イスラエルのための神の御目的が成就するためである：「彼らは、それぞれ、その同胞に、また、それぞれ、その兄弟に、主を知れ、と言って教えることはなくなる。なぜなら、大なる者から小なる者に至るまで、彼らはことごとく、わたしを知るようになるからである」（ヘブル8：11）。「『彼らはみな神に教えられるであろう』」（ヨハネ6：45）。また、「あなたがたのうちには、キリストからいただいた油がとどまっているので、だれにも教えてもらう必要はない」との御言葉が成就するであろう。「この油が、すべてのことをあなたがたに教える。それはまことであって、偽りではないから、その油が教えたように、あなたがたは彼のうちにとどまっていなさい」（Iヨハネ2：27）。

私たちが獣の刻印から守られる唯一の方法は、イエスとの新しい契約関係に入り、その完全な成就にあずかることである。これこそ、至聖所においてイエスが遂行しておられるこ

となのである。至聖所の中には、神の律法のそばにマナの入った壺がある。それは神からのみ来る生命のパンである。第一の部屋にあるパンは神から与えられたが、祭司たちの手を通して供えられた。至聖所にあるパンは、直接神から与えられるものである。それは、新しい契約の経験が完成することを表している。人間の悟りではなく、私たちが自ら神を知り、至聖所におけるイエスの務めを通して最後の贖い（一体となること）に入ることを神は望んでおられる。繰り返すが、これが獣の刻印から守られる唯一の方法なのである。

獣の刻印を受けるには、神の印を受けることを怠るだけでよい。神の印は、「純粋な真理のしるし」と呼ばれている（教会への証3巻、267ページ）。

天の真理だけが、人間の教えという腐敗から徹底的に識別されている。ダニエル書8章14節に登場した聖所の清めの大きい働きは、あらゆる人間的教えから神の民の心を清める働きとして理解されねばならない（希望下375ページ参照）。かつていかなる聖徒の一団も勝ち得たことのない勝利—人間の名の数字に打ち勝つこと—を得るための働きなのである。印された聖徒たちの口には偽りが無い。彼らは神の言葉だけを説くからである。「その時わたしはもろもろの民に清きくちびるを与え」る（ゼパニヤ3:9）。人間に源を置くあらゆるものから清められた信仰とメッセージを、彼らは持つに至るであろう。

「その日ユダの国で、この歌を歌う、『われわれは堅固な町をもつ。主は救をその石がきとし、またとりでとされる。門を開いて、信仰を守る正しい国民を入れよ。あなたは全き平安をもってころごしの堅固なものを守られる。彼はあなたに信頼しているからである。どこしえに主に信頼せよ、主なる神はどこしえの岩だからである。……』。……われわれの神、主よ、あなた以外のもろもろの主がわれわれを治めた。しかし、われわれはただ、あなたの名のみをあがめる。死んだ者はまた生きない。亡霊は生き返らない。それで、あなたは彼らを罰して滅ぼし、彼らの思い出をことごとく消し去られた」（イザヤ26:1-4, 13, 14）。



二つの冠

霊の賜物第四巻

1861年10月25日にバトル・クリークで与えられた幻の中で、私は、陰うつな地上を見せられた。天使が、「よく見なさい」と言った。それから私は、地上にいる人々を見せられた。ある者たちは神の天使たちに囲まれていて、他の者たちは暗黒の中で、悪天使たちに囲まれていた。私は、金の王笏を持った手が天から降りてくるのを見た。王笏の上方には、ダイヤモンドが散りばめられた冠があった。どのダイヤモンドも澄んだ、まばゆいばかりの光を放っていた。冠には、次のような言葉が刻まれてあった：「これを勝ち取る者は幸福になり、また永遠の生命を得るであろう」と。

下の方にはもう一つの王笏があり、その頂にも同じように冠が置かれていて、中心では様々な宝石や金銀がある程度の光を放っていた。この冠には、「地上の宝—富と権力。すべてこれを勝ち取る者は、名声を得る」と刻まれていた。大群衆が、この冠を獲得しようと殺到するのを私は見た。彼らは騒然としていた。ある者は必死の余り、気狂ったように見えた。彼らはお互いひしめき合い、自分よりも弱い者たちを後方へ押し返し、慌てすぎて転んで者たちを容赦なく踏み越えて行った。多くの者は、冠の中の宝を必死で掴み取り、それをしっかり手に持っていた。ある者たちの頭は高齢のためすっかり白髪になり、彼らの顔は心配と苦勞でしわだらけになっていた。彼ら自身の血肉である親戚の者たちに対しても心を留めず、訴えるような目で見られると、気をゆるめて宝を少しでも失ったり、彼らと分け合うはめになることを恐れるかのように、ますますしっかりと宝を握りしめるのであった。彼らの激しい目はたびたび地上の冠に注がれ、その宝を何度も目で数えるのであった。群衆の中には貧乏で哀れな様子の者がいて、そこにある宝をうらやましそうに見ていたが、より力の強い群衆が弱い者たちをどんどん押し返すので、彼らは絶望して離れていった。それでも彼らはあきらめきれずに、体の変形した者や病気の者、また年老いた者たちと一緒にあって、宝に到達しようと進んできた。他の者たちは、今にも宝を掴み取ろうとする丁度その時に倒れた。多くの者たちは、それを手に取るや否や、倒れてしまった。地には死体が転がっていたが、群衆はそれでも殺到し続け、仲間内の倒れた者やその死体を踏みつけにしていた。冠にたどり着いた者は、幾らかの分け前を得て、彼らの周囲にいる宝に興味深げな人々の喝采を受けた。

悪天使の大群は、非常に忙しくしていた。彼らの真ん中にはもちろんサタンもいて、誰もが地上の冠を追い求める群衆を見て狂喜し、満足げであった。宝を熱心に追い求める人に対して、サタンは特別な魅惑物を投げかけているようであった。この地上の冠を追い求めていた者たちの多くは、クリスチャンと公言する人たちであった。ある者たちは多少真理を知っていた。彼らは天からの冠を好ましく感じ、そしてたびたび、その美しさに魅せられた様子であった。ところが、その真の価値を悟ることができなかった。一方の手を力なく天からの冠に向かって伸ばしているながら、片方では地上の冠に向かって懸命に手を伸ばし、しきりに地上の冠を得ようとしていた。そして熱心に地上の冠を追求している間に、彼らは天国の冠を見失ってしまうのである。彼らは暗闇に取り残される。が、それでも地上の冠を得ようと必死で手探りを続けていた。ある者は、非常な熱心さでそれを追求している一団に嫌気がさして、自分たちの危険に気が付いたようであった。彼らはそこから離れ、天からの冠を熱心に求めた。このような人たちの表情は、すぐに闇から光に、陰気から陽気に、また聖い喜

びに変わった。

その時、ひたすら目を天国の冠に注ぎつつ群衆をかき分けて前進している一団を私は見た。無秩序の群衆の間を熱心に進んで行くとき、天使たちが彼らについて、彼らの先を行き、込み入った群衆の間に道をあけてくれた。天からの冠に近づくと、そこから放たれた光が彼らとその周囲を照らして闇を追い払い、彼らを変えられて天使に似る者になるまでその光度をどんどん増していった。彼らは、地上の冠には全く目もくれなかった。地上の冠を追い求めている者たちは彼らをあざけり、彼らの後ろから黒い玉を投げつけた。彼らの目が天国の冠に注がれている間は、その玉が彼らを傷つけることはなかった。ところが黒い玉が気にかかった者たちは、玉に当たって汚されてしまった。私に次のような聖句が示された：

「あなたがたは自分のために、虫が食い、さびがつき、また、盗人らが押し入って盗み出すような地上に、宝をたくわえてはならない。むしろ、自分のため、虫も食わず、さびもつかず、また、盗人らが押し入って盗み出すこともない天に、宝をたくわえなさい。あなたの宝のある所には、心もあるからである。目はからだのあかりである。だから、あなたの目が澄んでおれば、全身も明るいだろう。しかし、あなたの目が悪ければ、全身も暗いだろう。だから、もしあなたの内なる光が暗ければ、その暗さは、どんなであろう。だれも、ふたりの主人に兼ね仕えることはできない。一方を憎んで他方を愛し、あるいは、一方に親しんで他方をうとんじるからである。あなたがたは、神と富とに兼ね仕えることはできない」(マタイ6:19-24)。

それから、私が見た事柄について説明がなされた：私に示された、地上の冠を得ようと躍起になっていた群衆は、この世の宝を愛し、そのはかなく短い魅力に欺かれ夢中になっている人たちである。ある者たちはキリストの追従者であると公言しながら、地上の宝を獲得するために野心を燃やし、天国への愛着を失い、世と同じように行動し、天からは世の者として見なされるのを私は見た。彼らは朽ちない冠である天国の宝を求めていると公言するが、彼らの関心と第一の研究課題は、地上の宝を獲得することである。この世に宝を持ち、その富を愛する者は、イエスを愛することができない。自分たちは正しいと彼らは考えるかもしれない。また、彼らは自分たちが持っている物にけちけちと固執しているにもかかわらず、彼らにその事を気付かせることはできない。あるいは、真理の働きよりも、または天国の宝よりも金銭を愛していると悟らせることもできない。

「だから、もしあなたの内なる光が暗ければ、その暗さは、どんなであろう。」このような人たちには、折角与えられた光を大切にしないで、それが闇に変わってしまった時期がある。「地上の宝を愛し、崇拜していながら、真の富を持つことはできない」と天使が言った。

ひとりの若者がイエスのところにやって来て、次のように言った、「先生[良き師よ]、永遠の生命を得るためには、どんな良いことをしたらいいのでしょうか」(マタイ19:16)。イエスは彼に、自らの所有物を捨てて永遠の生命を得るか、それともそれらを保持したままで永遠の生命を失うかという、選択の余地を与えられた。彼にとって自らの富は、天国の宝以上に価値のあるものであった。キリストの追従者となって永遠の生命を得るには、自らの宝に別れを告げて、貧しい人々に施さねばならないという条件は、彼の希望をくじいたので、彼は悲しみながら立ち去ったのであった。

地上の冠を求めて騒然としていたのは、財産獲得のためには手段を選ばない人たちであったのを、私は示された。彼らはその点で狂気に走る。彼らの全思考とエネルギーは、地上

の富に向けられる。彼らは他者の権利を踏みにじり、貧しい者を虐げ、雇われびとの賃金をごまかす。自分よりも才覚の劣る者たちや、自分よりも貧しい者たちを利用して富を増やすことができれば、彼らを虐げるのを一瞬たりとも躊躇することはない。それが彼らを乞食の身に追いやることになろうとも。

高齢のため白髪となり、不安で顔がしわだらけになりながらも、冠の宝を必死で握っていた人たちがいた。彼らはもう余命幾ばくもない身であるにもかかわらず、地上の宝を確保するのに必死であった。墓場が近くなればなるほど、彼らの宝への執着心は強くなっていった。彼らの親戚がそれから恩恵を受ける訳ではない。家族の者ですら、わずかな貯えをするのに根を詰めて働くのを強いられる。他の人を潤すためにそれを用いるのでもなく、自分自身のために使おうともしない。彼らにとっては、自分が富を持っている、ということを知るだけで十分であった。貧しい者に施す義務が生じて、神の働きの必要が示されたときにも、彼らは悲しみながら立ち去ってしまう。永遠の生命という賜物を喜んで受けようとするが、自分たちが犠牲を払うことについては何であってほしいと嫌がる。条件が厳しすぎると感じる。しかし、アブラハムは自分の子を惜しもうとはしなかった。神に従うために、この約束の子を犠牲にすることができた。多くの者が地上の所有物のいくらかを犠牲にするよりもすんなりと、彼はそれをしたのであった。

栄光の実を結び、日々永遠の生命にふさわしい者となっているべき人たちが、自らの地上の宝を確保するために全力を注いでいる姿は、嘆かわしいとしか言いようがない。このような人たちは、天国の宝を正しく評価することができないのを私は見た。地上の宝に対する強い愛着のため、それを少しでも犠牲にしても足るほどは、天国という相続を重んじていないということ、彼らはその行為によって露呈するのである。

「若者」は、戒めを守る意志は表明したが、彼にはひとつ足りないものがあると主は言われた。彼は永遠の生命を望んだが、それ以上に自らの財産を愛した。多くの者が自己欺瞞に陥っている。彼らは隠された宝を捜すような気持ちで、真理を追求することはなかった。彼らのエネルギーと力は、最高に価値のあるものに注がれてはいない。天からの光で啓蒙されるはずであった彼らの心は困惑し、悩んでいる。「世の心づかいと、富の惑わしと、その他いろいろな欲とがはいってきて、御言をふさぐので、実を結ばなくなる」（マルコ4:19）。「このような人たちは、弁解の余地がない」と天使は言った。彼らから光が衰退していくのを私は見た。この時代のための厳粛かつ重大な真理を理解することを、彼らは望まなかった。それを理解しなくても大丈夫であると考えた。彼らの光は消え、彼らは暗闇の中で手探りしていた。

地上の冠に殺到していた、体が変形した者や病人たちからなる群集は、その関心と宝がこの世にある人たちである。彼らは何をやっても、どこへ行っても失望に終わっているのに、天国の冠に愛着を移して、天の宝と住まいを確保しようとはしない。地上の冠を得るのに失敗し、尚もそれを追い求めながら、天からの冠を失ってしまった。地上の富を得ることに全精力を傾けて、失望と不幸の一生を送って死を迎えた人たちがいるにもかかわらず、他にも地上の宝を追い求めることによって同じ道をたどる人たちがいる。彼らが後を追っている者たちの残した模範、その惨めな結末に構うことなく、狂ったように進み続けるのである。

冠にたどり着いてその取り分を手に入れた者は皆、喝采を受けた。彼らは富という、自らの定めた人生最高の目標を獲得した人たちである。そして彼らは、世が富んでいる者に与える榮譽を受けたのであった。彼らは世に影響力を持っている。サタンと悪天使たちは満足する。こういった人たちは確実に彼らの手中にあることを悪魔たちは知っていて、彼らは生

きている限り神に反逆することによって、サタンの強力な手先となるのである。

地上の宝を得ようと騒然としている一団に嫌気がさしたのは、地上の富を得るために奮闘した者たちの生涯と結末に目を留め、彼らが決して満足しなかったことに気付いた人たちである。地上の富を追い求めた者たちが不幸であったことに彼らは驚き、彼らはその不幸なグループから離れて、真の長持ちする富を捜し求めた。

天使に同行してもらいながら、群衆をかき分けつつ天からの冠を目指していた人たちは、神の忠実な民であることを私は示された。天使たちに案内をしてもらい、勇気百倍となった彼らは、熱心に天の宝を目指して前進した。

聖徒たちの後ろから投げつけられた黒い玉は、神の民についてでっち上げられた、批判的デマであったことを私は示された。それは、偽りを愛し行う者たちによって投げつけられたものであった。非の打ち所のない生活を送るよう、細心の注意が払われるべきである。あらゆる種類の悪から遠ざかるべきである。そして、それから堂々と前進しなさい。悪人の批判的デマを気にしてはならない。義人の目が天の、無限の価値のある宝に向けられている限り、彼らはますますキリストに似る者となり、天に移されるにふさわしい者に変えられるであろう。

「神のみ言葉はこのさし迫った危険について警告を与えてきた。これが顧みられないならば、プロテスタントの世界は、ローマ教会の目的が実際に何であったかを知ったときには、もはや手遅れになってそのおなを逃れることができないであろう。」大争闘下341

スタディ バイブル日本語版 聖書

E.G.ホワイトの 注解聖書 発行



注解
脚注
引照付き
地図、チャート
金のりんご
主題別聖書研究
E.G.ホワイト著書の
聖句索引
聖書語句索引

価格：14,000円

この「スタディ バイブル」は、弊社が1991年度から初版（英文）を、1995年度に第二版（標準英文版）を発行して以来、年月の重なるに従って、その重要性が増してきました。その後、数多くの出版社を通じて韓国語版（1995年）とスペイン語版（1998年）が出版されました。それからアメリカのミッション出版社からはReview and Herald 印刷所を通じて現在までの出版が続いており、また、数多くの国々で各種の方言での出版が続いています。「スタディ バイブル」は10余年の歴史の中で多くのキリスト者の方々に貴重な聖書として評価されています。日本語版の「スタディ バイブル」は1998年から始まってまる2年3ヶ月ぶりにできあがりました。



永遠の福音 (EVERLASTING GOSPEL PUBLISHING ASSOCIATION)

サンライズ・ミニストリー

沖縄県今帰仁村今泊 1471 TEL : 0980-56-2783 FAX : 0980-56-2881 E-mail : Anchor@cosmos.ne.jp